

井上式！よくわかる目の病気事典

見たいところが歪む!?「加齢黄斑変性」

先生の、見つめてきたもの〈vol.14〉 渡邊先生
同門会だより〈氷川台かたくら眼科〉

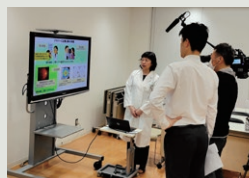
2024
AUTUMN
vol.130

ご自由にお持ちください。

見たいところが歪む！？ 「加齢黄斑変性」



#INOUYE NEWS



左より：見えにくさ相談会を実施（お茶の水）、日本糖尿病眼学会にて薬剤課の桐原氏が堀賞受賞（西葛西）、NHK「おはよう日本」に
國松副院長出演（西葛西）、レーザー白内障手術説明会を開催（お茶の水）、森院長による新体制（大宮）、行事食「夕涼み御膳」



井上眼科だより



医療法人社団 済安堂
井上眼科病院グループ
INOUYE EYE HOSPITAL GROUP

井上式！よくわかる目の病気事典

見たいところが歪む！？「加齢黄斑変性」

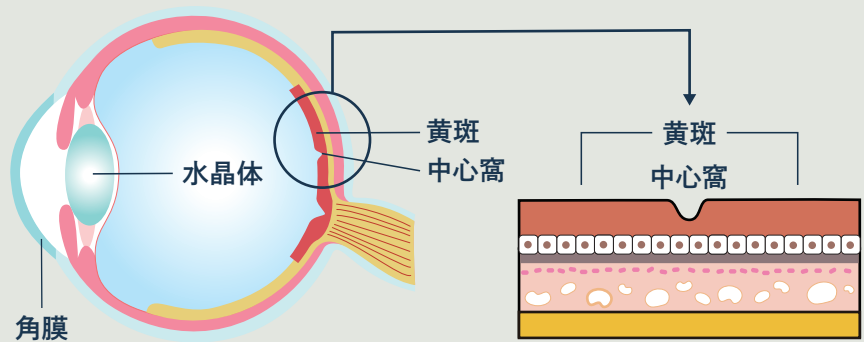
01

加齢黄斑変性とは？

加齢黄斑変性とは、年齢と共に黄斑に変化が生じ、視機能が低下してくる病気。「見たいところが歪む（変視症）」、「見ている物の中心が暗く見える（中心暗点）」といった症状が現れます。多くは片方の目から発症するため、両目で見ていると異常になかなか気づきません。欧米では成人の失明原因の第1位であり、日本でも高齢化や食の欧米化により増加傾向にあります。

「黄斑」はどうして大切なの？

黄斑は網膜の真ん中にあり、他より黄色く見える部分。その中心には「中心窩（ちゅうしんか）」と呼ばれる約0.35mmのくぼみがあります。実はここ、文字を読んだり、色を識別する視細胞が多く集まる大切な部位で、視力検査でいう“視力”とは、中心窩の視力のことを指します。



02

病気のタイプは大きく2つ

加齢黄斑変性のタイプは大きく以下の2つに分類されます。特に日本人に多いのは「滲出（しんしゅつ）型」と呼ばれるタイプ。主な原因は、脈絡膜から発生する「新生血管（本来ない場所にできる異常な血管）」が増殖し、黄斑部に漏れ出す（滲出）ことです。一方、「萎縮型」は、加齢とともに黄斑の組織が徐々に萎縮することが原因です。こちらは進行がゆっくりなため、食生活や運動習慣の改善を図りつつ、定期的な経過観察が必要です。

「新生血管」が原因？

「新生血管」とは本来ない場所にできる異常な血管のこと。栄養を運ぶための血管の働きが悪くなると発生します。不完全なもろい血管で、出血しやすいのが特徴。

YES

滲出型

日本人に最も多いタイプです。進行が早いため、中心窩に影響が出ないようにすぐに治療を開始します。

NO

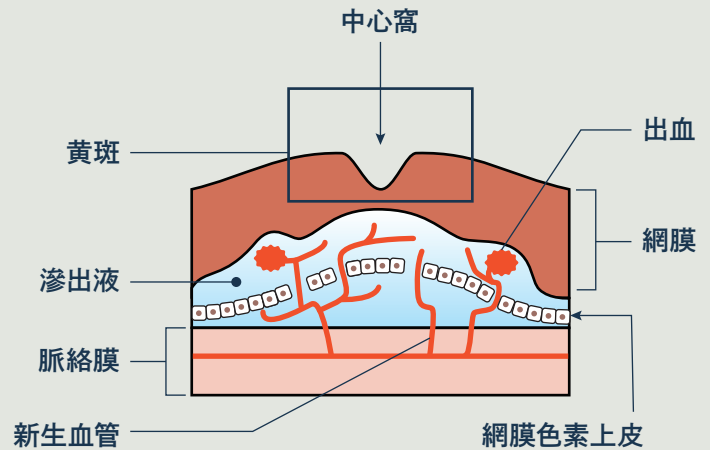
萎縮型

進行は非常にゆっくりですが、滲出型に移行するケースもあるため経過観察が大切です。

03

「新生血管」はなぜ発生するの？

原因のひとつとして「網膜の下に老廃物が溜まってしまうこと」が考えられています。黄斑部は目に入ってきた情報を処理する際にたくさんのエネルギーを消費します。そのため、栄養や酸素を網膜や脈絡膜の毛細血管から得ています。その新陳代謝で生じる老廃物は、通常、網膜色素上皮内で消化されるのですが、加齢などにより上手く処理ができなくなると、網膜と脈絡膜の間に老廃物が蓄積され、弱い炎症を引き起こします。この炎症を鎮めようと、脈絡膜から網膜の方へ新生血管が伸びてくると考えられています。



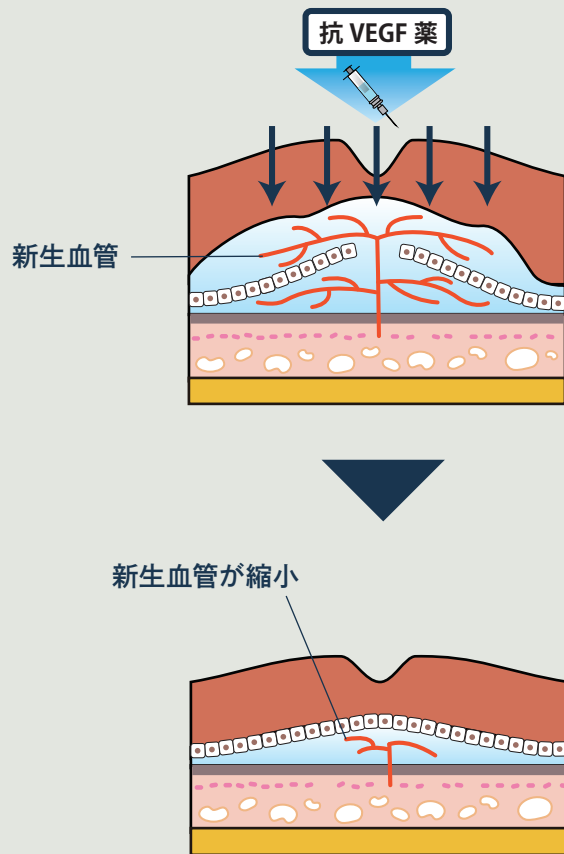
04

主な治療法

治療法は大きく3つ、①硝子体注射（抗VEGF薬治療）、②PDT（光線力学療法）、③レーザー光凝固術があります。新生血管の位置やタイプによって治療は異なりますが、「新生血管の増殖を食い止める」という点では共通しています。近年、硝子体注射の進歩が目覚ましく、第一の治療法になっています。

硝子体注射（抗VEGF薬治療）

新生血管の成長を促す「VEGF（血管内皮細胞増殖因子）」という物質の働きを抑えることを目的に、硝子体の中に抗VEGF薬を注射します。麻酔薬を点眼して注射するため、痛みはほとんどありません。これにより視力の要である中心窩にまで新生血管が広がるのを抑え、新生血管を縮小させます。注射の頻度や回数、使用する薬剤の種類は、疾患の状態によって異なりますが、治療の効果は1～2ヵ月程度のため、定期的な治療を続けていく必要があります。この治療法により、新生血管の発育が止まり、視機能が維持されるだけでなく、出血や滲出物の吸収と共に視機能が回復することも期待されます。



当院グループでは硝子体注射が年間5,000件以上行われています！

硝子体注射のメリットは、眼内に直接薬剤を投与することで「全身的な副作用のリスクを軽減できる点」にあります。点眼薬などとは異なり、硝子体内の病変に対してより強く治療効果を引き出すことができます。現在は加齢黄斑変性や糖尿病網膜症などの疾患に使われる治療法として確立されており、当院グループでは、タイプや効果が異なる5種類の抗VEGF薬を使用し、年間5,000件以上（グループ累計）の硝子体注射が行われています。

05

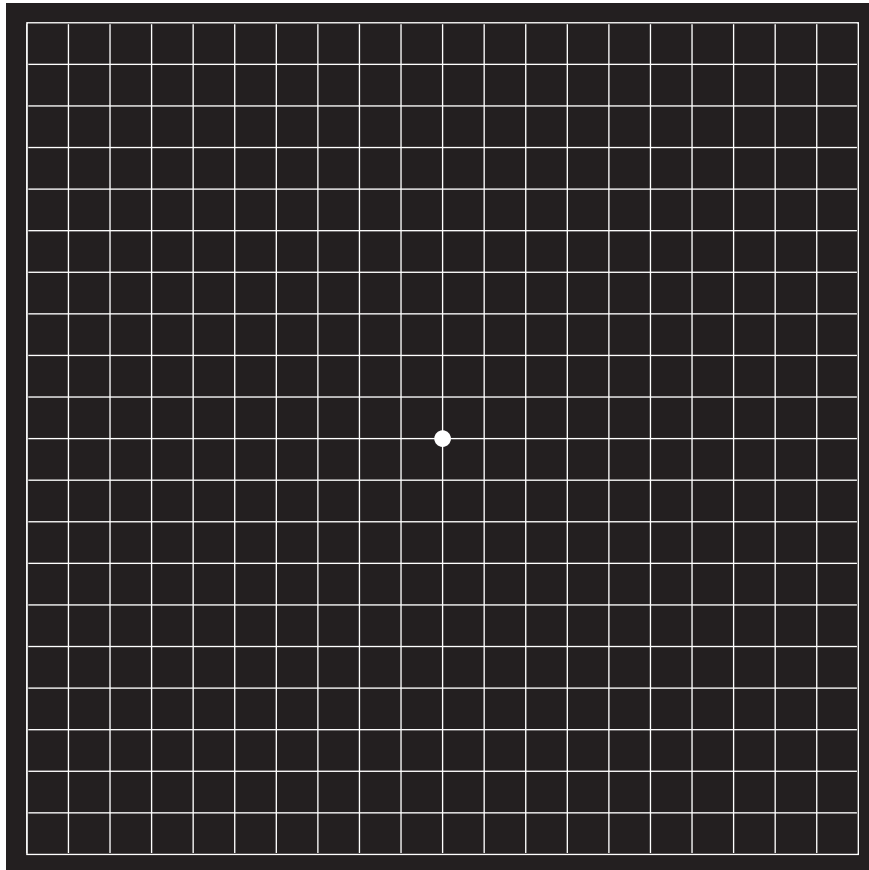
月に1回は見え方のセルフチェックを！

加齢黄斑変性は早期発見・早期治療がとても重要です。そのためにも症状にいち早く気づくことが大切。見え方の変化をチェックする方法が、この「アムスラーチャート」です。ぜひ月に1回、チェックするようにしてみてください。

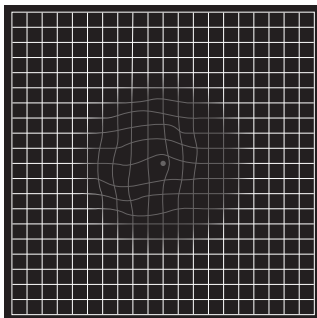


約30センチ離れて「片目」ずつ中心を見てみましょう

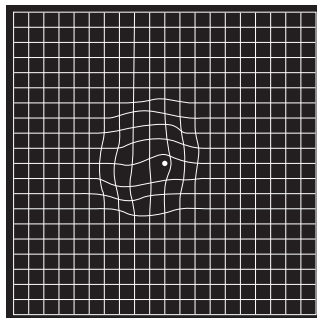
※メガネはかけたままでOKです



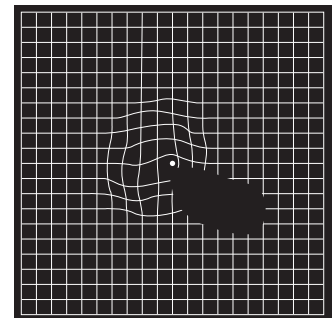
見え方がおかしいな…と感じたら、井上眼科病院グループにご相談ください



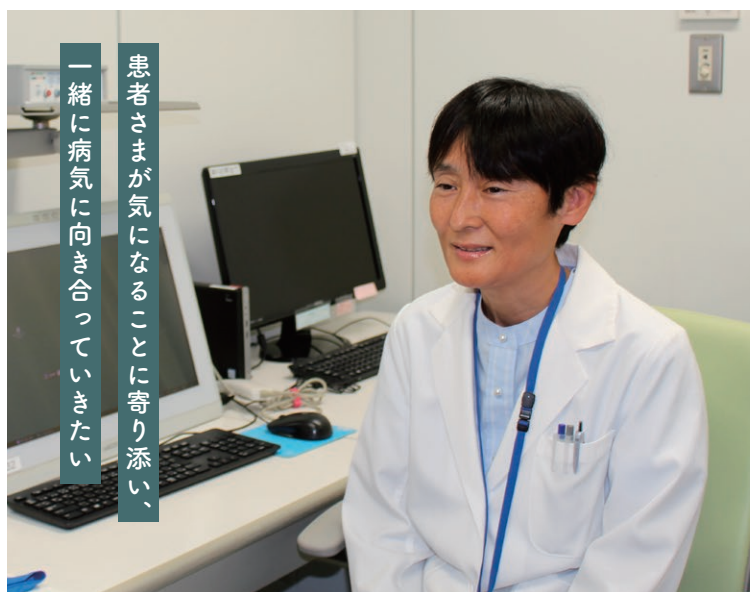
見たい部分が不鮮明



中心がゆがむ



見たい部分が黒く欠ける



今年4月に

西葛西・井上眼科病院の手術部長に
就任した渡邊先生。

これまでのキャリアや、
専門である網膜硝子体手術の
ことについて聞きました。

渡邊 恵美子

Emiko Watanabe

西葛西・井上眼科病院手術部長

山形大学医学部卒、帝京大学医学部眼科学講座 病院准教授を経て、
2024年4月より西葛西・井上眼科病院に手術部長として入局。専門は網
膜硝子体。

両親が勧める「教師」ではなく「医師」の道へ

小学生の頃までは体がとても小さく、病弱な子どもでした。近所の小児科の先生が、夜遅くでも診てくれたことを覚えています。医師を志したのは、高校生の頃。両親ともに教師で、私も将来は教師になることを強く勧められていました。でも、自分が教師に向いているとは思えなかったのです。教師以外の職業で「これなら両親が納得してくれそうだ」と思ったのが、医師でした。当時の高校生の短絡的な発想でしたが、今では医師の道に進んでよかったと思っています。

さまざまな疾患を診る眼科診療の面白さ

医学部に進み、診療科を選択することになったとき、自分に合っていそうだと感じたのが眼科・皮膚科・耳鼻科の3つ。その中から、最終的には眼科を選びました。眼は小さな臓器にもかかわらず、さまざまなタイプの疾患があります。そこに興味を惹かれたことと、眼科は亡くなる患者さまが少ないことも選んだ理由のひとつでした。

眼科医になりたての頃は、四六時中いろいろ考えては落ち込んでいました。治療の効果が十分に出なかったとき。治療がうまくいったと思ったのに、患者さまに納得していただけなかったとき。また、予想以上にいい結果が出て、自信過剰になっていたこともあります。今思えば、医師という仕事が自分の人生のすべてになってしまい、余裕がありませんでした。経験を積んだ今では、医師の仕事に冷静に向き合えています。「仕事は仕事」として割り切って考えるように心がけているんです。自分に余裕が生まれ、患者さまや日々の診療にも良い影響を及ぼせていると感じています。

眼科医を長く続けてきて、ほとんどの疾患は診療の経験があります。眼科一般を診ていますが、特に専門としているのが網膜硝子体手術です。無駄な操作や手技を入れずに、適切に手術を終了できたときは、一流の作品を作り上げたような充実感があります。一方、常に平常心で集中している必要があるのが難しいところでしょうか。

患者さまと向き合い、寄り添う診療を

西葛西の溝田院長にお声がけいただき、今年4月に井上眼科に入局しました。眼科全般の診療と、専門である網膜硝子体手術を主に担当しています。

患者さまと向き合うときは、その方が一番気になることに寄り添うようにしています。患者さまが満足できる治療効果が困難なとき、慢性の疾患で長期の治療が必要なときは、特に丁寧に説明することを心がけています。病院通いはつらいですが、患者さまが少しでも安寧な気持ちで病気と向き合えるよう、スタッフと共に応援し、サポートしてまいります。

【第34回】同門会だより

全国で活躍中の井上眼科OBの先生方をご紹介します！

氷川台かたくら眼科

方倉 聖基 院長

2011年2月～2023年2月 お茶の水・井上眼科クリニック在籍

今回ご紹介するのは、東京都練馬区の「氷川台かたくら眼科」院長 方倉 聖基先生です。方倉院長は、2019年からお茶の水・井上眼科クリニックの副院長を務められ、昨年6月にクリニックを開院されました。現在も当院のクリニックにて涙道外来をご担当されています。

「井上眼科で働き出した頃は、同世代の先生方が多く在籍しており、日々、診療や手術のことをいつも話し合い、切磋琢磨できる環境でした。次の診療の糧となり、当時は大変でしたが今では良い思い出になっています」(方倉院長)。



氷川台駅より徒歩1分の好アクセス



方倉院長（左）と当院の井上（右）

方倉院長のモットーは「ペイ・フォワード(恩送り)」とのこと。「私が頂いた恩に感謝しながら、これから出会う人に恩を送れるように心がけております」と診療への想いを語られました。それを体現するように、これまでに培った経験を活かして、地域医療の発展に日々取り組まれています。「地域に涙道治療を専門とする医療機関は多くありません。しっかりと地域の医療に貢献していきたいです。またニーズの多い白内障手術をはじめ、地域の眼のかかりつけ医として幅広く診療しております。涙のことでお困りごとがございましたら、ぜひご相談ください」。

クリニック情報

氷川台かたくら眼科

〒179-0084 東京都練馬区氷川台 3-40-10-2F

TEL. 03-6915-8258
<https://katakura-eye.clinic/>

INFORMATION

西葛西 事業用自動車運転者のための眼科検診を開始

西葛西・井上眼科病院では、運転者の視野障害が原因となる事故を防ぐために自動車運送事業者が知っておくべき内容や取り組み手順などを示した『自動車運送事業者における視野障害対策マニュアル』が国土交通省により策定されたことをうけて、事業用自動車の運転者向けの眼科検診を開始いたしました。

※現在、眼科で治療中の方はお受けできません。

※一般の方はお受けできませんのでご了承ください。

対象者	事業用自動車の運転者 (バス・タクシー・トラックなど)
検診費用	6,000円(税込)
検査項目	視力検査、眼圧検査、 眼底検査



詳しくはこちら▲

札幌 7月より「涙道内視鏡」を再開しました

札幌・井上眼科クリニックでは、最新の涙道内視鏡を導入しました。直径0.9mmの非常に細い管に、高精細なカメラがついており、涙道の詰まりを直接観察することが可能です。

「涙目の状態が続く」「涙があふれて視界がぼやける」「目やにがたまりやすい」などは、涙の通り道が詰まる「涙道閉塞」という病気かもしれません。

涙道内視鏡による経過観察や涙管チューブの挿入で症状を改善させることができます。涙道内部を映像で確認しながら行うので、安全性が高く、患者さまに負担が少ないことが特長です。

10月より手術日も火曜日AM・木曜日AMの週2回に拡大していきます。お困りごとがありましたらお気軽にご相談ください。



詳しくはこちら▲



医療法人社団 済安堂

井上眼科病院グループ

INOUYE EYE HOSPITAL GROUP

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-3
新お茶の水ビルディング 18階

<https://www.inouye-eye.or.jp/>

井上眼科だより vol.130 | 井上眼科病院グループ広報誌 2024年10月1日発行 | 編集・発行/井上眼科病院 経営企画部 広報課

今月の表紙

加齢黄斑変性を早期発見するためにも、セルフチェックをぜひやってみてください。